

コロナ禍における外国人 患者受入れの課題

りんくう総合医療センター 国際診療科

南谷 かおり

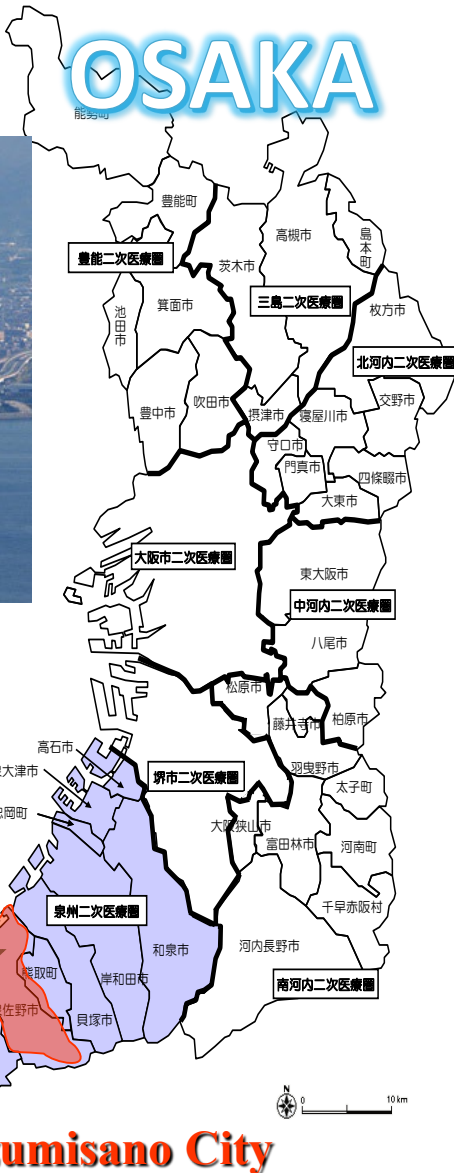




地方独立行政法人

りんくう総合医療センター

関空橋を渡ってすぐ



Kansai Int. Airport

泉州地域

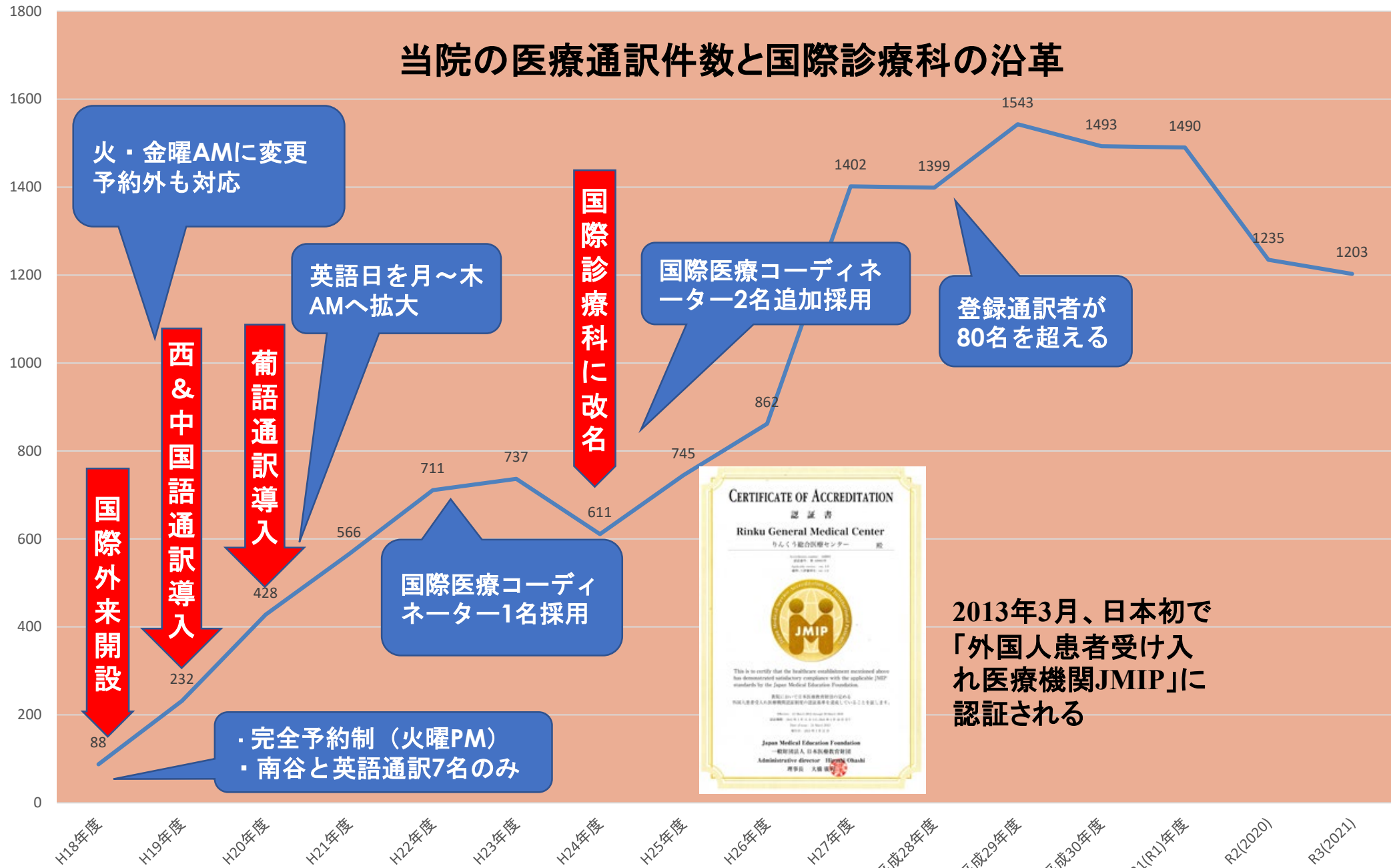
Izumisano City

1952年 「市立泉佐野病院」として開院
1997年 関西国際空港近くに移転
2011年 「地方独立行政法人化」

- 大阪南部の基幹病院、**特定感染症指定病院(国内4カ所のみ)**
- 診療科: 23科、病床数388床:
 - ・泉州救命救急センター40床
 - ・感染症センター10床



当院の医療通訳件数と国際診療科の沿革



火・金曜AMに変更
予約外も対応

西 & 中国語通訳導入

葡語通訳導入

英語日を月～木
AMへ拡大

国際診療科に改名

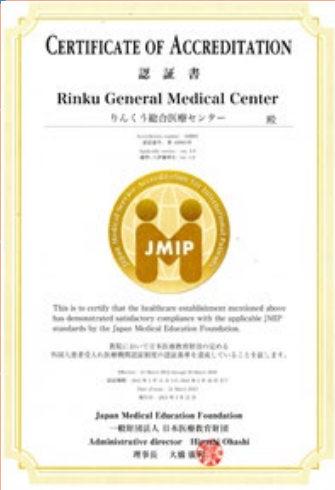
国際医療コーディネーター2名追加採用

登録通訳者が
80名を超える

国際外来開設

国際医療コーディネーター1名採用

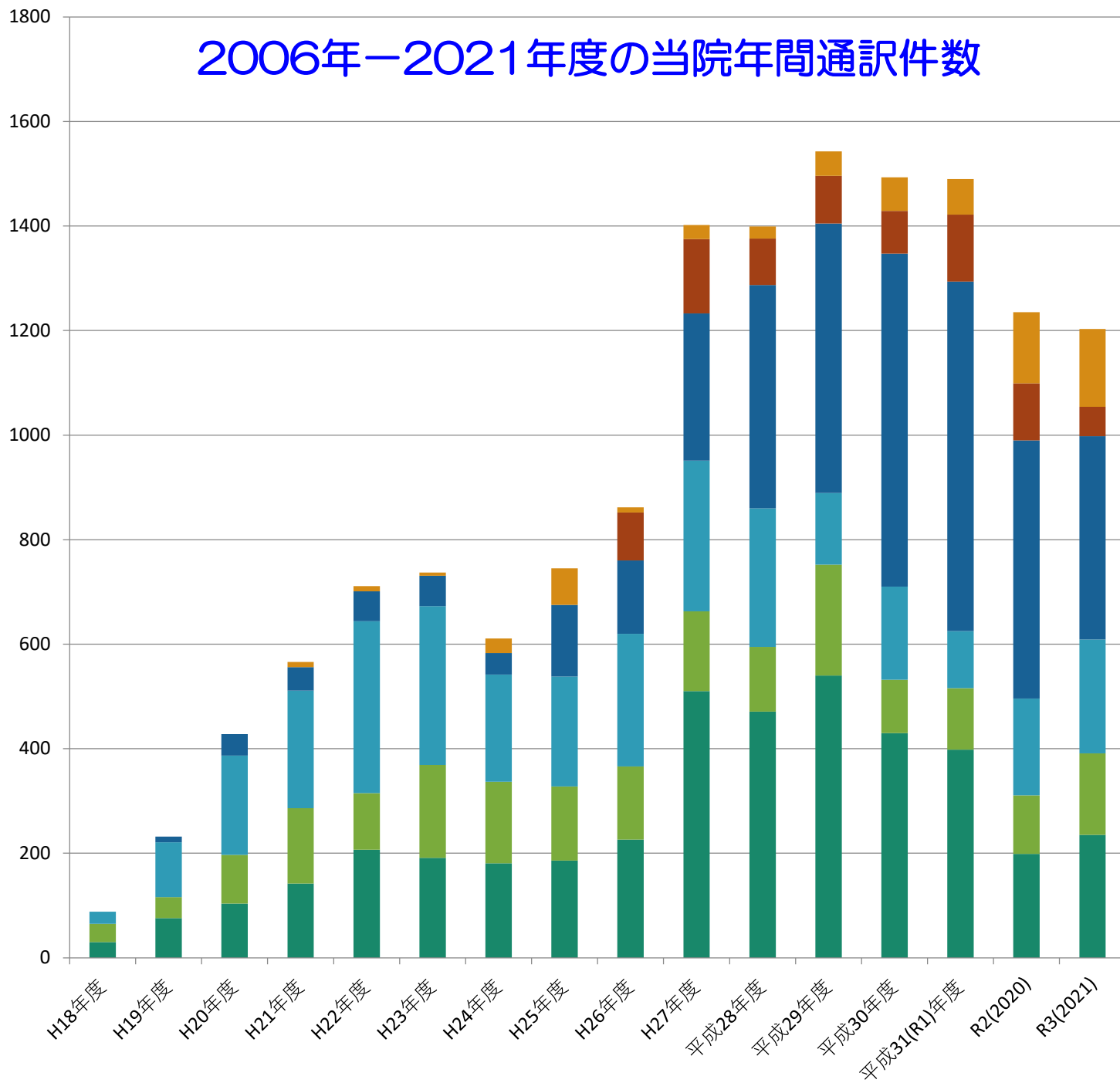
・完全予約制（火曜PM）
・南谷と英語通訳7名のみ



2013年3月、日本初で「外国人患者受け入れ医療機関JMIP」に認証される

当院は大阪府外国人患者受け入れ拠点医療機関である

2006年－2021年度の当院年間通訳件数



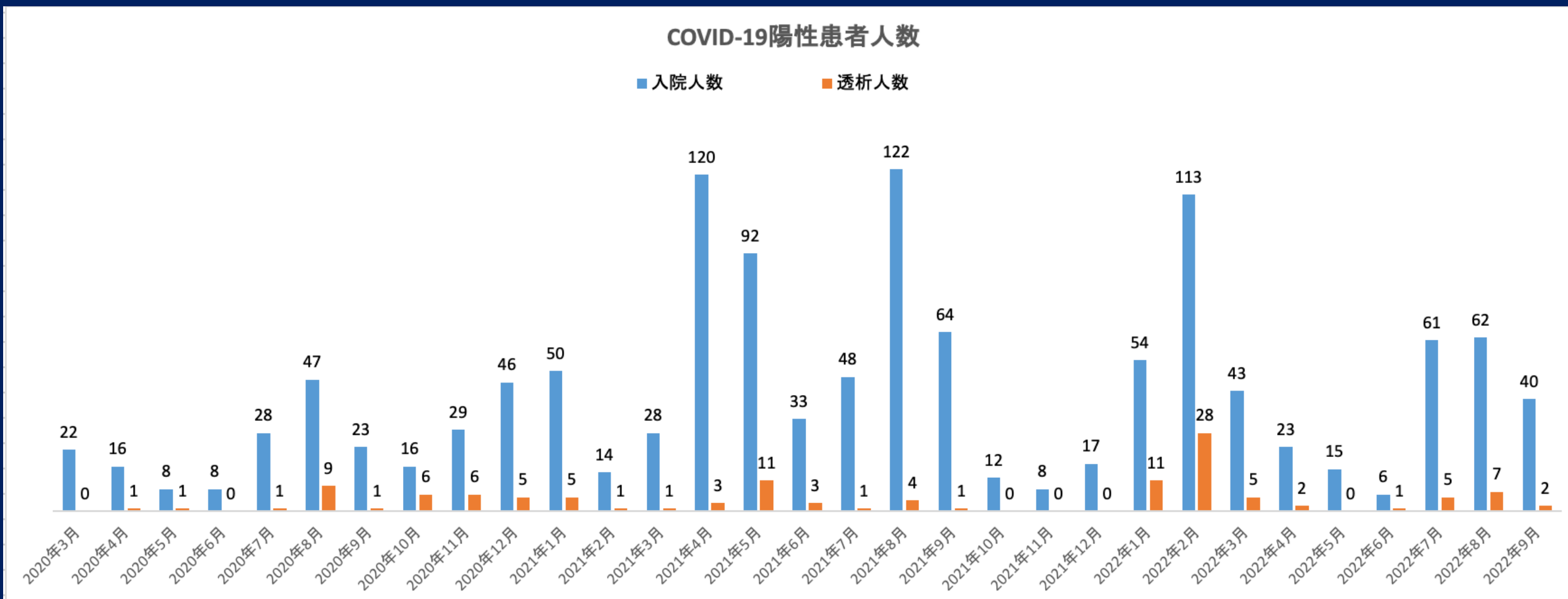
コロナ禍前は
訪日外国人が2割強

- その他
- タガログ語
- 中国語
- スペイン語
- ポルトガル語
- 英語

りんくう総合医療センター COVID-19陽性全入院患者

2022.9.25現在1268名(平均年齢59.2歳)
透析患者121名(平均年齢68.5歳)

※自施設データ





March 2020 Treating a serious COVID-19 patient at the Infectious Diseases Control Center



During the 5th wave of Corona (Delta variant)
Transported from Myanmar, Indonesia & Bangladesh



外国人患者の 課題



院内環境



言葉の壁

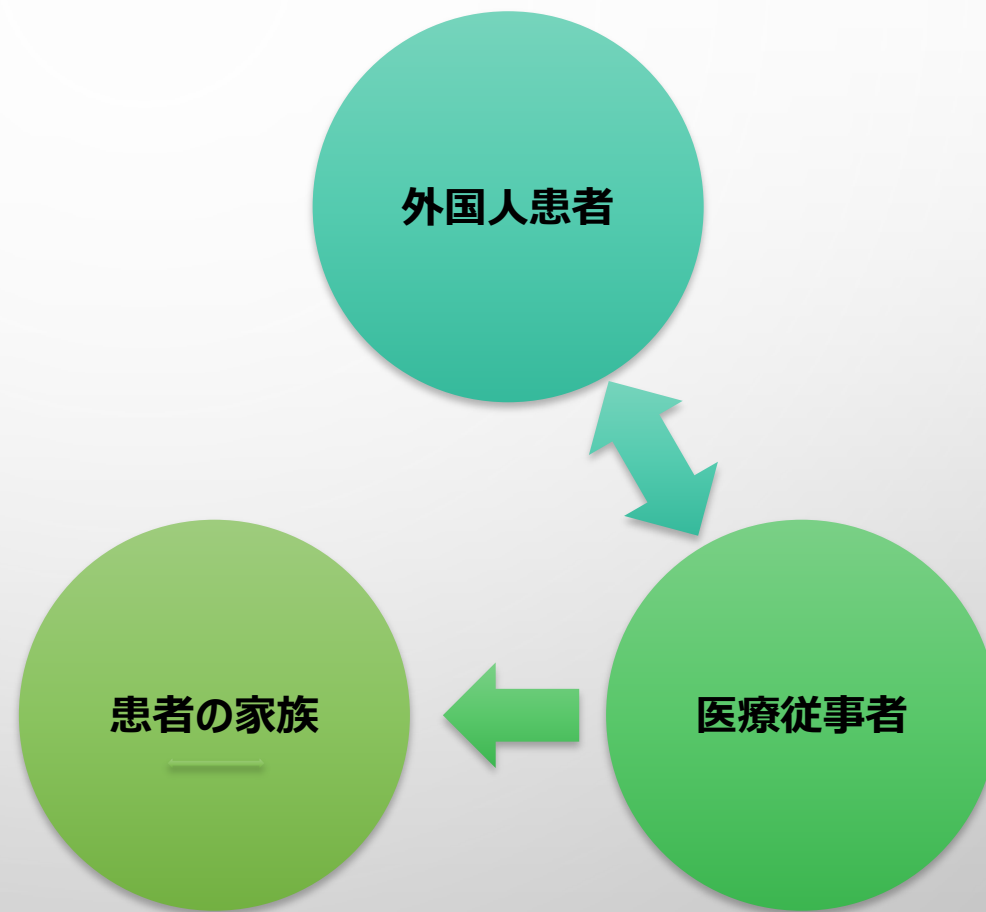


書類関係

院内環境

- 訪日外国人の場合、インターネットを使えるよう院内でFree Wi-Fiの設定が必要
- 自動翻訳機や遠隔通訳が使えるよう、タブレット端末やポケット等
を準備
- 頻繁に使う用語や文章は、当該言語で指差し会話帳を作成
- 発熱や咳等の症状がある場合の注意喚起を、病院入り口に英語と
中国語で掲載（電光掲示板）

情報伝達



言葉の壁

- 感染予防のために入院患者との対面通訳は避け、主に遠隔通訳や自動翻訳機を使用
- 外国人から、症状があってコロナを疑う場合に受診できるかと電話での問い合わせが多数あり →近医に誘導
- 濃厚接触者で自宅待機中にもかかわらず、入院した家族に会いに来ようとした（待機家族への説明が困難）
- コロナで遠くから搬送されて入院したため、退院後に帰路が解らない患者がいた

書類関係

- 退院後の注意点等が書かれている書類が日本語で理解できない
- 入院費は外国人でも公費でカバーされるが、公費申請書が日本語のため患者がサインするにはサポートを要する
- 公費負担以外で発生した費用は後日振込の案内をしていたが、外国人にとっては難しい



渡航が再開したことで、今後は外国人患者の増加が見込まれます

更なる環境整備が必要です